管 区 事 務 所
〒162-0805
東京都新宿区矢来町65番
電話 (03)5228-3171
FAX (03)5228-3175

日本聖公会

NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE
65, Yarai-cho, Shinjuku-ku
Tokyo 162-0805, Japan
Tel. 81-3-5228-3171
Fax. 81-3-5228-3175

【主教会メッセージ】

“戦後 80 年”に当たって

「自分自身の内に塩を持ちなさい。そして、互いに平和に過ごしなさい。」

（マルコによる福音書 9：50）

〈 はじめに 〉

日本聖公会に連なるすべての皆様の上に、主のご復活のお喜びと主の平和がありますようお祈りいたします。

今年、2025 年はアジア・太平洋戦争が終結してから 80 年目に当たります。日本の敗戦により戦争は終結しましたが、この戦争により、2,000 万人とも言われるアジア・太平洋地域の人々、日本国内の人々が犠牲になりました。80 年を経ても戦争の犠牲や被害による様々な傷は癒えてはいません。殊に、日本が侵略した国々との和解と平和が未だに実現していないことを、わたしたちは反省と痛みをもって覚えます。

戦後 80 年に当たり、わたしたちはこの戦争で犠牲になった人々、また、今もその痛みや苦しみ、悲しみの中にある人々のために祈ると共に、世界の平和に向けての日本聖公会のあるべき姿を改めて確認したいと思います。

〈日本聖公会の戦争責任〉

この時にあたり、わたしたちが想い起したいことは、1995 年に開かれた「日本聖公会宣教協議会」のことです。「日本聖公会の宣教 ―歴史への責任と 21 世紀への展望」の主題のもと行なわれたこの協議会において、日本聖公会の戦争責任を認め、その反省の上に、21 世紀に向けて、日本にあって歴史的に支配や戦争の被害を受け、今も差別を受けている人々 ―在日韓国朝鮮人をはじめとする他のアジアの人々、沖縄の人々、アイヌの人々、被差別部落の人々、障がいを持つ人々、女性たち、など― と共に歩むことを宣教の中心課題としていくことを確認しました。

さらに、翌 1996 年開催の日本聖公会第 49(定期)総会では「日本聖公会の戦争責任に関する宣言を決議する件」が採択され、全教会が日本聖公会の戦争責任を共有し、日本が侵略した諸国の教会に対し日本聖公会としての謝罪の意志を伝えるとともに、各教区・教会において歴史的事実の認識と福音理解を問い直し、深めるための取り組みを継続して進めることを決議しました。

そして、アジアにおける各聖公会との協働関係 ―殊に、大韓聖公会、フィリピン聖公会との協働関係―を築くことに努め、また、沖縄における平和と人権問題への関わりを推し進めてきました。南北朝鮮の平和統一を含む東アジア全体の平和と和解、そして、沖縄における平和の確立は今後とも日本聖公会の宣教活動の大事な課題であり続けることを改めて確認し、その実現のため努力を続けていきます。

〈 2023 年日本聖公会宣教協議会 〉

2023 年 11 月 10 日から 13 日の日程で、山梨県清里・清泉寮に、すべての教区主教をはじめ

各教区代表、管区諸委員会など信徒・教役者 132 名が集い、「いのち、尊厳限りないもの ～となりびととなるために～」を主題に、2023 年日本聖公会宣教協議会が開催されました。今回の宣教協議会は「2012 年日本聖公会宣教協議会」から十年後に＜宣教・牧会＞の実りを持ち寄るとしていた約束を受けて開かれ、2024 年 2 月 2 日、「2023 年日本聖公会宣教協議会からの呼びかけ」が出されました。「ここからまた歩きはじめよう ～いのちに仕え、となりびととなるために～ 1. 神のみ声に耳を傾けよう　2. 人々の声に耳を傾けよう　3. 世界の声に耳を傾けよう」と呼びかけられて、教区・教会・信徒・教役者が「となりびととなるために」、ここから耳を傾ける具体的な実践を大切にして歩んでいくことを表明しています。

〈 これからの日本聖公会のありかた 〉

2022 年 2 月 24 日ロシアがウクライナに侵攻して 3 年が経ち、2023 年 10 月 7 日ハマスの越境攻撃に対しイスラエルがパレスチナ自治区ガザ地区を空爆して 1 年半、終わりの見えない戦争が続いて 6 万人、5 万人以上が犠牲となっています。ミャンマーでは 2021 年 2 月 1 日、軍事クーデターが勃発し民主化途上で阻止されました。先頃発生したミャンマー大地震の被災者救援も停滞しています。日本政府はアメリカの核の傘の下、特に沖縄米軍基地の固定化、辺野古基地建設の強行、台湾有事を殊更に喧伝し、南西諸島の自衛隊基地の新基地建設を加速させ、戦争の放棄を謳った憲法第 9 条の改定を目論むなど日本の軍事強化へ突き進んでいます。それに伴い沖縄、韓国、中国との関係の悪化等平和や安定が脅かされています。

一方、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）は、2024 年のノーベル平和賞を受賞しました。唯一の被爆国である日本は、「核兵器のない世界」を目指すべきです。核兵器で世界を滅ぼしてはいけません。日本聖公会は、「核といのちは共存できない」との理念で、原発のない世界を求めています。このような状況であるからこそ、戦後 80 年を迎えたわたしたちは、これまでの歴史と主イエスの福音から学び、いのちを輝かせる働き、隔ての壁を取り除き、分かたれたものを一つにする平和の器として歩んで行く思いを新たにするのです。

〈 平和のしるし・和解の器として 〉

主キリストは十字架の死の前に「父よ、あなたが私の内におられ、私があなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。」(ヨハネ 17：21)と祈られました。そして復活された後、弟子たちに現れ、「父が私をお遣わしになったように、私もあなたがたを遣わす。」と命じて彼らに聖霊を授け、和解の務めへと送り出されました（ヨハネ 20：21 以下)。

わたしたちは日本社会の中にあって小さな群れです。しかし主キリストにあって一つであること、そして、いのちを尊び、祝福しあう共同体として、共に礼拝し、仕え、歩むことで、それぞれの地域での“平和のしるし”となることができます。

戦後 80 周年に当たり、わたしたちは主に在って一つであることが“平和のしるし”となることを覚えます。そして「日本聖公会の戦争責任に関する宣言」や「2023 日本聖公会宣教協議会からの呼びかけ」に掲げられている取り組みを丁寧に実践し、主キリストの十字架の死と復活によって示された和解と平和を告げ知らせて行きます。

2025 年 復 活 日

日本聖公会主教会

戦後８０年を覚えて

真理と平和の源である全能の神よ、
アジア・太平洋戦争の終結から８０年を迎えたこのとき、
わたしたちは、戦争により犠牲となったすべての方々を覚え、
あなたの深い憐れみの御手にゆだねます。
また、今なお痛みや苦しみのうちにある人々の上に、
主の癒しと慰め、そして平安が豊かに注がれますよう祈ります。
わたしたちが過去の歴史から目をそむけることなく、
地上の平和を脅かし、
あなたのかたちに造られた一人ひとりのいのちと尊厳を奪い去る、
あらゆる戦争と暴力に対して、
目を開き、声を上げ、
あなたの平和の器となることができますように、
わたしたちに必要な知恵と勇気をお与えください。
主は父と聖霊とともに一体の神であって、世々に生きすべてを治めておられます。
アーメン

（2025 年 復活日　日本聖公会主教会作成）